



■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE横浜2022年版v.1.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ヤマタネ本牧ふ頭開発計画	階数	地上4F
建設地	横浜市中区本牧ふ頭7番172, 8番	構造	SRC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	40人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2024年6月 竣工	評価の実施日	2024年8月26日
敷地面積	7,920㎡	作成者	前田建設工業(株)
建築面積	5,001㎡	確認日	2024年8月26日
延床面積	19,584㎡	確認者	前田建設工業(株)



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.6 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 76%

③上記+②以外の 76%

④上記+ 76%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.2

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.9

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.7

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		
総合 パース検討を行い、周辺に調和する色彩の外観・内観計画としている。 各階にSKは配置したり、清掃しやすい仕上材料にするなど、維持管理に配慮した設計としている。		その他
Q1 室内環境 倉庫部分にセンサー制御による照明を採用している。	Q2 サービス性能 1~3階に給湯室を設け、1~2階に自販機置場、3階に食堂を計画している。	Q3 室外環境(敷地内) 敷地境界沿いに緑化を行い、まちなみ・景観に配慮している。
LR1 エネルギー 壁・床下に断熱材を使用し、モデル建物法により計算している。	LR2 資源・マテリアル ノンフロン発泡断熱材を選定している。	LR3 敷地外環境 アメダスデータによる風環境の把握を行っている。 周辺交通に配慮し、車両入口と出口を分けることで安全性に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい



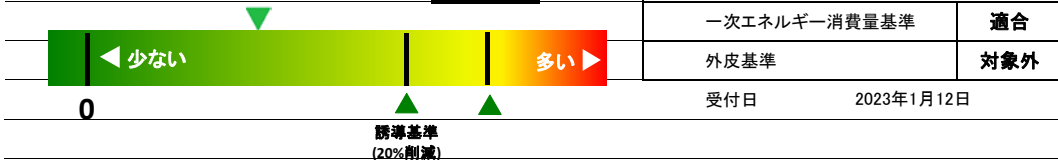
4 横浜市重点項目についての環境配慮概要 <非住宅>

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。 建物名称 ヤマト本牧ふ頭開発計画

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving 重点項目への取組(5点満点) 【省エネルギー性能】 5

■省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)

この建物の設計一次エネルギー消費量 57 %削減



■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)

③LED照明器具の導入により省エネ化を図っている。

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community 重点項目への取組(5点満点) 【快適・働きやすさ】 3

■室内環境対策 (⑨温熱環境対策 ⑩光環境 ⑪空気質環境)

⑩センサー制御による照明を採用。

⑪内装仕上材には、すべてF☆☆☆☆の建材を使用しています。

■機能性対策 (⑫機能性 ⑬知的生産性向上の取組)

⑫全ての階にトイレを設置、また主要な事務機能のある1~3階に給湯室と自販機スペースを設置するなど機能性に配慮しました

■室外環境(敷地内)対策 (⑭敷地内温熱環境の向上)

防災への配慮 (R) Resilience 重点項目への取組(5点満点) 【防災】 3

■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)

⑯排水管はVP管とし、給湯管はSUSとすることで、耐用年数の向上に配慮している。

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape 重点項目への取組(5点満点) 【地域・まちづくり】 3

■室外環境(敷地内)対策 (⑱生物環境 ⑲まちなみ・景観 ⑳地域性への配慮)

太陽光発電などの導入	環境配慮技術の導入 (太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)

エネルギーマネジメントシステム導入	



CASBEE横浜2022年版v.1.0
 ヤマトナホク心頭開発計画

バージョン CASBEE横浜2022年版v.1.0

スコアシート		実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質					-		-			3.2
Q1 室内環境					0.30					3.3
1 音環境				2.6	0.15	-	-			2.6
1.1 騒音				3.0	0.40	-	-			-
1.2 遮音				3.0	0.40	-	-			-
1		開口部遮音性能		3.0	0.60	-	-			-
2		界壁遮音性能		3.0	0.40	-	-			-
3		界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-			-
4		界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-			-
1.3 吸音				1.0	0.20	-	-			-
2 温熱環境				3.0	0.35	-	-			3.0
2.1 室温制御				3.0	0.63	-	-			-
1		室温	快適・働きやすさ	3.0	0.38	-	-			-
2		外皮性能	快適・働きやすさ 健康・安心	3.0	0.25	-	-			-
3		ゾーン別制御性	快適・働きやすさ	3.0	0.38	-	-			-
2.2 湿度制御				3.0	0.38	-	-			-
2.3 空調方式				3.0	0.38	-	-			-
3 光・視環境				3.5	0.25	-	-			3.5
3.1 昼光利用				3.0	0.30	-	-			-
1		昼光率	快適・働きやすさ	3.0	0.60	-	-			-
2		方位別開口	快適・働きやすさ	-	-	-	-			-
3		昼光利用設備	快適・働きやすさ	3.0	0.40	-	-			-
3.2 グレア対策				3.0	0.30	-	-			-
1		昼光制御	快適・働きやすさ	3.0	1.00	-	-			-
3.3 照度				3.0	0.15	-	-			-
3.4 照明制御				5.0	0.25	-	-			-
4 空気環境				4.3	0.25	-	-			4.3
4.1 発生源対策				5.0	0.50	-	-			-
1		化学汚染物質	快適・働きやすさ	5.0	1.00	-	-			-
4.2 換気				3.3	0.30	-	-			-
1		換気量	快適・働きやすさ	3.0	0.33	-	-			-
2		自然換気性能	快適・働きやすさ	3.0	0.33	-	-			-
3		取り入れ外気への配慮	快適・働きやすさ	4.0	0.33	3.0	-			-
4.3 運用管理				4.0	0.20	-	-			-
1		CO ₂ の監視	快適・働きやすさ	3.0	0.50	-	-			-
2		喫煙の制御	快適・働きやすさ	5.0	0.50	-	-			-
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-			3.9
1 機能性				4.1	0.40	-	-			4.1
1.1 機能性・使いやすさ				4.0	0.40	-	-			-
1		広さ・収納性	快適・働きやすさ	5.0	0.33	3.0	-			-
2		高度情報通信設備対応	快適・働きやすさ	4.0	0.33	-	-			-
3		バリアフリー計画	快適・働きやすさ	3.0	0.33	-	-			-
1.2 心理性・快適性				5.0	0.30	-	-			-
1		広さ感・景観	快適・働きやすさ	5.0	0.33	-	-			-
2		リフレッシュスペース	快適・働きやすさ	5.0	0.33	-	-			-
3		内装計画	快適・働きやすさ	5.0	0.33	1.0	-			-
1.3 維持管理				3.5	0.30	-	-			-
1		維持管理に配慮した設計	快適・働きやすさ	4.0	0.50	-	-			-
2		維持管理用機能の確保	快適・働きやすさ	3.0	0.50	-	-			-
2 耐用性・信頼性				3.1	0.30	-	-			3.1
2.1 耐震・免震				3.0	0.50	-	-			-
1		耐震性	防災	3.0	1.00	-	-			-
2		免震・制振性能	防災	-	-	-	-			-
2.2 部品・部材の耐用年数				3.4	0.30	-	-			-
1		躯体材料の耐用年数	防災	3.0	0.20	-	-			-
2		外壁仕上げ材の補修必要間隔	防災	3.0	0.20	-	-			-
3		主要内装仕上げ材の更新必要間隔	防災	3.0	0.10	-	-			-
4		空調換気ダクトの更新必要間隔	防災	3.0	0.10	-	-			-
5		空調・給排水配管の更新必要間隔	防災	5.0	0.20	-	-			-
6		主要設備機器の更新必要間隔	防災	3.0	0.20	-	-			-
2.4 信頼性				3.0	0.20	-	-			-
1		空調・換気設備	防災	3.0	0.20	-	-			-
2		給排水・衛生設備	防災	3.0	0.20	-	-			-
3		電気設備	防災	3.0	0.20	-	-			-
4		機械・配管支持方法	防災	3.0	0.20	-	-			-
5		通信・情報設備	防災	3.0	0.20	-	-			-
3 対応性・更新性				4.3	0.30	-	-			4.3
3.1 空間のゆとり				5.0	0.30	-	-			-
1		階高のゆとり		5.0	0.60	-	-			-
2		空間の形状・自由さ		5.0	0.40	-	-			-
3.2 荷重のゆとり				5.0	0.30	3.0	-			-
3.3 設備の更新性				3.4	0.40	-	-			-
1		空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-			-
2		給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-			-
3		電気配線の更新性		5.0	0.10	-	-			-



CASBEE横浜2022年版v.1.0
 ヤマトネ本牧ふ頭開発計画

バージョン CASBEE横浜2022年版v.1.0

スコアシート		実施設計段階		重点項目		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
	4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	-	-	
	5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	-	-	
	6	バックアップスペースの確保		4.0	0.20	-	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.40	-	-	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出		地域・まちづくり	⑩生物環境の保全と創出	2.0	0.30	-	-	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		地域・まちづくり	⑨まちなみ・景観への配慮	3.0	0.40	-	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.0	0.30	-	-	-	-	3.0
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域・まちづくり	3.0	0.50	-	-	-	-	
	3.2	敷地内温熱環境の向上	快適・働きやすさ	3.0	0.50	-	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	-	-	3.6
1 建物外皮の熱負荷抑制		省エネルギー性能	①建物の熱負荷抑制	1.0	0.20	-	-	-	-	1.0
2 自然エネルギー利用		省エネルギー性能	②自然エネルギー利用	3.0	0.10	-	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		省エネルギー性能	③設備システムの高効率化	5.0	0.50	-	-	-	-	5.0
4 効率的運用				3.0	0.20	-	-	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	-	-	
	4.1	モニタリング	省エネルギー性能	3.0	0.50	-	-	-	-	
	4.2	運用管理体制	省エネルギー性能	3.0	0.50	-	-	-	-	
	集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-	
	4.1	モニタリング	省エネルギー性能	-	-	-	-	-	-	
	4.2	運用管理体制	省エネルギー性能	-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	-	-	3.8
1 水資源保護				3.4	0.20	-	-	-	-	3.4
	1.1	節水		4.0	0.40	-	-	-	-	
	1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.7	0.60	-	-	-	-	3.7
	2.1	材料使用量の削減		2.0	0.11	-	-	-	-	
	2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.22	-	-	-	-	
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.22	-	-	-	-	
	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		5.0	0.22	-	-	-	-	
	2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-	-	-	
	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み		5.0	0.22	-	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				4.3	0.20	-	-	-	-	4.3
	3.1	有害物質を含まない材料の使用		5.0	0.30	-	-	-	-	
	3.2	フロン・ハロンの回避		4.0	0.70	-	-	-	-	
	1	消火剤		-	-	-	-	-	-	
	2	発泡剤(断熱材等)		5.0	0.50	-	-	-	-	
	3	冷媒		3.0	0.50	-	-	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮				3.9	0.33	-	-	-	-	3.9
2 地域環境への配慮				3.2	0.33	-	-	-	-	3.2
	2.1	大気汚染防止		5.0	0.25	-	-	-	-	
	2.2	温熱環境悪化の改善		2.0	0.50	-	-	-	-	
	2.3	地域インフラへの負荷抑制		4.0	0.25	-	-	-	-	
	1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	-	-	
	2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	-	-	
	3	交通負荷抑制		5.0	0.25	-	-	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制		5.0	0.25	-	-	-	-	
3 周辺環境への配慮				2.8	0.33	-	-	-	-	2.8
	3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	-	-	
	1	騒音		3.0	0.50	-	-	-	-	
	2	振動		3.0	0.50	-	-	-	-	
	3	悪臭		-	-	-	-	-	-	
	3.2	風害、砂塵、日照障害の抑制		2.3	0.40	-	-	-	-	
	1	風害の抑制		2.0	0.70	-	-	-	-	
	2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	-	-	
	3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	-	-	
	3.3	光害の抑制		3.7	0.20	-	-	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		4.0	0.70	-	-	-	-	
	2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	-	-	
上記以外の重点項目						-	-	-	-	
<事務所用途>						-	-	-	-	
	知的生産性向上への取組		快適・働きやすさ	⑪知的生産性向上への取組	3.0	-	-	-	-	
<住宅用途>						-	-	-	-	
健康と安心						-	-	-	-	
	1	化学汚染物質の対策	健康・安心	⑥健康対策	-	-	-	-	-	
	2	適切な換気計画	健康・安心	⑥健康対策	-	-	-	-	-	
	3	結露・カビ対策	健康・安心	⑥健康対策	-	-	-	-	-	
	4	犯罪に備える(共用部の防犯対策)	健康・安心	⑦防犯対策	-	-	-	-	-	